

2030年の稲城を描く

No.2

市民会議 8月31日開催

第2回 市民会議を開催しました

8月31日、地域振興プラザにおいて「2030年の稲城を描く市民会議」第2回を開催しました。最初に、これからの市民会議の進め方について全体で話し合い、その後、「2030年、あなたはどんなまちに暮らしていますか？」をテーマに、3つのグループに分かれた分散会形式で、意見交換を行いました。

2030年の稲城を描く市民会議

どんな会議にしていこう？

グループ別に話し合った内容を共有した方がいい

話し合うテーマも皆で出し合おう

グループメンバーはテーマにより流動的がいいな

皆で共通のビジョンを持って進めないと！

23人は多いかな。
数グループに分けて話し合おう

たくさん話し合いたい！

話し合いの進め方

分散会：グループごとに話し合いたいテーマをどんどん出していく

テーマ集約：皆で出したテーマを集約し分類する

テーマ別討議：自分が話し合いたいテーマのグループ討議を選んで参加する

2030年、あなたはどんなまちに暮らしていますか？
話し合いたいテーマは何ですか？

■Aグループの話し合い

10年後は、自然も減ってくるようなので、「自然を大切にしたいまち」になってほしい。

おばあちゃんやおじいちゃんから話を聞いて、ちょっと都会で、ちょっと田舎のような感じ、世代間交流しやすいまちと感じている。

まちづくりは、ここで住んでよかったと思えるまちづくりを。

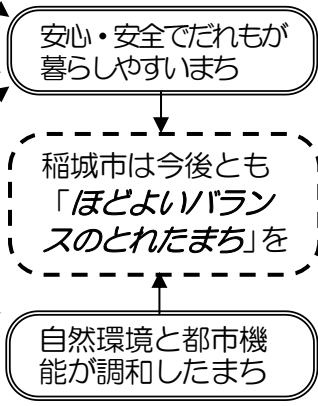
住んでみて大変なところ、良いまちと感じている。このような良いまちをもっとPRすべき。

稲城市の良さを伝えるデザイン（イメージづくり：ちょっと都会で、ちょっと田舎～雑誌等のデザインまで）をPRする。

観光資源をもっと磨き、たくさんの人に来てもらえるようなまちになってほしい。

大学生としてボランティア種をした人も多く、もっと大学生に頼ってもらってもいいのでは。

- 稲城の良さを伸ばす（交通の便、緑の多さ、安心・安全）
- 大学生が暮らしやすいまち
- 新・旧住民が活発に交流するまち
- 女性が生き生きと暮らせるまち
- ちょっと都会で、ちょっと田舎
- 自然と調和したまち
- ほどよいまち、居心地の良いまち
- ほどよいまちをデザインし、内外にPRする
- 都会と田舎のほどよいバランスがとれたまち



■Bグループの話し合い

資源を活かし人が来るまち

市民自らやっちゃうまち

助け合いのネットワーク

全国モデルの少子化・高齢化対策

子どもを産み育てやすいまち

稲城の独創性の発揮

小さくなるまちづくりデザイン

職住近接のまちづくり

橋本都市圏の稲城

つながりをデザインするまちづくり

素敵な田舎（適度な都会）

未来をデザインするまちづくり

■Cグループの話し合い

「梨」をアピール、ブランド化

カジュアルファームが必要、応援不足

市民は梨好き、作るのが大変な農家

障害者も農業が好き

地域農家を支援する必要

ありのままの自然を大切にしたい

子どもが走り回れる環境にない

自由度の高い自然、放置されている緑

アスレチックを設置しているまちがある

農業を大切にするまち

稲城を語るもの（テーマ）が欲しい

緑（自然）の活用

「自分の子どもが、このまち（生まれ育ったところ）に住み続けられるまち」生まれ育った稲城で、子育てできることを希望

「すべての世代が楽しめる場所があるまち」野菜（の育成）やお祭りなど、子どもから高齢者が集まって種いているイメージ。

「10年後20年後も自然を残したい」そのためにも、環境の維持が必要であり、それを観光で補うしくみが必要

「すべての命を無下にしないまち」

「市民レベルで話し合いができるまち」「インクルージョンのまち」障がいのある人が復帰できるための機能が不十分で、障害を持つと閉じこもり・孤立する。助け合いのまちを。

「生まれた場所が好きになるように、人のつながりがあるまち」

「チャレンジを応援するまち」生き生きとしている人（市民）を一人でも多くしたい。現状では人がつぎはぎされていない。若い人、企業に勤める人、年齢の人がつぎはぎするしくみがあれば。

田舎らしさが残し、沢山の資源・魅力（奥付りや坂のホタルなどを活かして、人が来るようなまちになるといい。

適切な田舎であり、適度な都会である稲城の継続が望まれる。IT産業の振興などによる産業人口が増える取り組みが必要

平尾や矢野口お宿の方が多いため高齢化の地域格差があるが、30年後も若葉も、稲城市は全国モデルとなる少子化・高齢化対策を進めたい。

リニア新線による橋本エリア化など、社会が変化する。未来のイメージを共有しまちづくりを描くことが大切

寝たきりの防止、引きこもり対策により社会参加をする人を増やす。介護の軽減により若い人も生き生きとしたいまちが望まれる。

市の大きさは、将来もこのままだと思う。市内での働く場所が少なく、職住近接のまちづくりを考える。

2030年には3人に1人は高齢者となり空き家も増える。緩やかな人口減少に止め、子どもを産み育てやすいまちへ

敢えて小さくなるまちづくりをすすみ、素敵な田舎のままで行きたい。駅など交通の便が良いが、市内の移動は課題

市民の皆様へ

2030年の稲城に向けたご提案を受け付けています！

稲城市では2030年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。
あなたの考える2030年の稲城の将来像について、ご提案ください。
ご提案いただいた内容は、長期総合計画を策定する際、市民の皆様からのご意見として参考とさせていただきます。

ご提案はこちらから

https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=chouki

個別の返答はいたしませんので、
あらかじめご了承ください。



©K.Okawara・Jet Inoue

参加者の横顔

井川さん

皆さんと一緒に活発な意見を交わしながら、私自身も勉強していきたいです。

加藤さん

ずっとここで住んでいきたいなと決めたところです。子どもも過ごしやすいまちにしていくには、というところで知恵を出していきたいです。

磯村さん

子どもの未来を考えた時に、今、大人として何ができるか、この会議をきっかけに皆さんと考えていきたいです。

川畑さん

会議を通し色々な声を聞きたい、自分の意見を出したいと思っています。

工藤さん

ずっとこの先も稲城に住んでいきたいと思い、関わりを持ちたいということで参加しました。

第3回 2030年の稲城を描く市民会議の開催

開催日時 平成30年10月12日(金) 19:00~
会場 地域振興プラザ4階 大会議室

- これからの進め方について決定します。
- グループごとに討議する、2030年の稲城を描く具体的なテーマを決定します。
- 今年度中に実施する小中学生アンケートの内容について討議します。



©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市

2030年の稲城を描く

発行 稲城市

編集 企画部 企画政策課 長期総合計画担当

〒206-8601 稲城市東長沼 2111

☎042-378-2111 (代表) 内線 532

e-mail chou_kei5@city.inagi.lg.jp